



都市第 82-1 号

平成 19 年 5 月 8 日

国土交通省道路局長 様

四日市市長 井上 哲夫



中期的な計画の作成にあたっての意見について

平素は本市道路行政にご指導・ご協力を賜りありがとうございます。

さて、平成 19 年 4 月 2 日付国道企第 114 号で依頼のありました「今後の道路政策や道路の整備・管理に係る意見」については別添のとおりです。

道路は多様な機能を有しており、今後も地域活力維持を支援する中期計画となるようご配慮いただきますようお願いいたします。

事務担当

都市整備部都市計画課

政策グループ

電話(059)354-8194

FAX(059)354-8404

本市は臨海部にわが国有数の工業地帯が形成されるなど、高度経済成長を牽引する商工業都市として発展してきた。この間、公害という負の経験もあったが、現在では環境問題に苦しむ発展途上国の特性に応じた公害防止の技術移転を推進するなど地球環境保全にも貢献する都市として新たな成長を続けている。

しかし、モータリゼーションの進展と道路整備の遅れによる交通事情の悪化は都市の運営にも深刻な影響を与えており、特に国道23号等の慢性的な渋滞は臨海部産業の競争力低下だけでなく、沿道周辺の住環境をも脅かしている。

このため、臨海部に集中する交通の分散を図る道路として、第二名神高速道路や東海環状自動車道（西回り区間）をはじめとする広域道路の整備、及び広域道路と都市部をつなぐ連絡道路を早期に整備することが強く求められている。

次に、国道23号（4車線）とともに本市の主要な基幹道路である国道1号は、大部分が2車線しか整備されておらず、産業の発展や良好な市民生活の弊害になっているほか、両路線とも臨海部に位置することから近い将来発生が予想される東南海地震等では液状化による被害が予想されている。そこで、現在整備が進められている国道1号北勢バイパスは、市の郊外部に位置し液状化等による被災の可能性が少ないことや、第三次救急医療拠点に指定されている県立総合医療センターと三重県北部地域を短時間で結ぶ「命の道」としての役割も強く期待されているところである。

また、市内の県管理国道においては、緊急輸送路に指定されているにもかかわらず未改良区間があり、至急の対応が望まれるところでもある。おりしも、本年2月に発生した国道1号天白橋の通行止めはこうした市内道路網の脆弱さを強く認識させられたところであり、国道1号北勢バイパスの早期整備が不可欠である。

一方、市道についてみると、その供用延長が延びるなかで維持管理経費が増大しており、反面、緊急輸送路における橋梁耐震化については、耐震、落橋防止対策が必要な市管理橋梁の18%にも満たない実施状況である。また、対策が必要な橋長15m以上の橋梁のうち10年後には9%の橋梁が、また20年後には64%の橋梁が架設後50年以上を迎えるなど施設の老朽化が進むことから、今後ますます計画的な維持、修繕に要する財源確保が大きな課題となってくる。

他方、少子・高齢社会、人口減少時代においては、これまでの拡大型からコンパクトで歩いて暮らせるまちづくりへの転換が必要であり、都市経営の観点からも必要な都市計画道路の整備に加えて、交通結節点の機能強化や公共交通網と連携したバリアフリー化など市民の暮らしに直結した道路整備が求められている。

このように災害に備えた道路整備、道路の持つ多様な機能を適正に発揮させるための整備など、市民生活を支える都市基盤整備は未だ不十分であり、今後も整備効果を十分加味したうえで計画的な道路整備を行なっていく必要がある。

このため、受益者負担に基づく道路特定財源の趣旨を踏まえ、確実に地域の活力維持に必要な道路財源を確保するとともに、地域の主体的な政策に応じた柔軟な活用が可能となるよう強く要請したい。

**【重点的に取り組むべき施策】**

1. 道路ネットワーク構築への一層の取り組みとともに、臨海部産業の競争力確保、周辺環境の改善、震災時の緊急輸送道路など多様な効果や機能を有する北勢バイパスを早期に整備し、国道 23 号の慢性的な渋滞を解消すること。
2. 交通結節点の機能強化や公共交通網と連携したバリアフリー化、東海・東南海などの大規模地震に備えた橋梁の耐震化など国民の暮らしに直結した道路整備への支援、並びに地域の主体的な政策に応じた柔軟な道路財源の活用を図ること